

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	運動学演習Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学演習Ⅱ
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標 運動学を実践的に(再)学習することで運動学を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関節の正常な構造と機能を説明できる ・実習で得られた結果を、運動学的に解釈できる ・身体運動・動作の特徴や仕組みを説明できる ・計測手法を用いて測定できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の評価（実習） ・肩甲帯・肩（実習） ・手関節・手指（実習） ・骨盤帯・股関節 ・膝・下腿 ・足関節・足部（実習） ・運動連鎖 ・歩行（実習） ・バランスについて
テキスト 参考書	<p>基礎運動学 第6版 補訂：医歯薬出版株式会社</p> <p>その他：適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>レポート</p> <p>筆記試験</p>
受講上の注意	座学・実技形式（Webにて実施する場合あり）

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	整形外科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	整形外科学Ⅱ
担当講師	高橋 欣吾・安岐 涼輔
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節 2. 肘関節 3. 手関節及び手指 4. 股関節 5. 膝関節 6. 足関節 7. 骨折総論（救命救急を含む） 8. 骨折外傷各論（1） 9. 骨折外傷各論（2） 10. 末梢神経 11. 脊髄損傷 12. スポーツ障害 13. 手術方法について（1） 14. 手術方法について（2） 15. 定期試験
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 その他配布資料
評価の方法	試験結果による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合あり)

理学・作業療法学科2年

授業科目名	神経内科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経内科学Ⅱ
担当講師	西口 皓喜 傳 秋光
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 西口：理学療法士 傳：医師 》
授業の目的	神経疾患各論について理解する
授業の概要	<p>西口先生担当(12回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害 2. 認知症 3. 脳腫瘍 4. 外傷性脳損傷 5. 脊髄疾患 6. 変性疾患(錐体外路系を除く)脱髄疾患 7. 錐体外路系の変性疾患 8. 末梢神経障害 9. てんかん・筋疾患 10. 感染性疾患・中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患筋疾患 11. 小児神経疾患 12. 廃用症候群と誤用症候群、合併症 13. 排尿障害 14. 性機能障害 <p>医用画像：傳先生担当(2回)</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 「神経内科学」
評価の方法	定期試験による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合もある)

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学 I	
担当講師	塚原健司	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 精神保健福祉士・公認心理士 》	
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。 	
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・治療的な関わりとは 2 ICFとは・ICD-10とDSM-V 3 脳科学 4 認知症 I 5 認知症 II 6 依存症 I 7 依存症 II 8 依存症 III 9 統合失調症 I 10 統合失調症 II 11 統合失調症 III 12 摂食障害 13 予備日 14 期末テスト対策 15 期末テスト <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。 ・適時DVDや事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>	
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学	
評価の方法	授業態度	20%
	レポート	30%
	期末テスト	50%
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。 ・Webにて講義を行う場合もあります。 	

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業学演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業学演習Ⅱ	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業基盤や作業焦点の分析を実際に行うことができる。 ②病態・疾患の特徴に応じた作業分析ができる。 ③体験・観察したことを分析し、記録することができる。	
授業の概要	第 1-4 回	理論の概要について理解し、理論に基づく評価を学ぶ <到達目標> ①理論に概要について説明できる ②各理論に基づいた評価について理解できる
	第 5-7 回	理論の再確認と雑誌作業療法の実践報告にて症例提示 <到達目標> ①症例情報を ICF にまとめることができる ②作業療法理論を用いて全体像を整理することができる
	第 8-11 回	検討症例に対する作業活動の作成 <到達目標> ①具体的なリーズニングをすることができる ②作業を支援するための器具を作成することができる
	第 12-15 回	支援の実際・実演 <到達目標> ①自ら作成した作業を実演できる ②他者の作業に質問ができる
テキスト 参考書	・「作業」って何だろう 作業科学入門 ・準備資料（配布資料）	
評価の方法	成果物および課題レポート等の合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループ演習、オンライン講義など	

作業療法学科 2年

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ
担当講師	亀山 一義
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》

授業の目的	「作業療法は評価に始まり，評価に終わる」と言われるほど作業療法評価は重要である．本講義では，対象者を理解することに不可欠な作業療法評価を理解し，実施できるようことを目的とする．
-------	--

授業の概要	第 1-3 回	<p>感覚検査 《到達目標》</p> <p>①：感覚の種類と伝導路を理解する． ②：感覚検査の概要を理解し，説明できる． ③：感覚検査の意義と目的を説明できる ④：感覚検査を実施できる．</p>
	第 4-5 回	<p>反射検査 《到達目標》</p> <p>①：反射の経路を理解する． ②：腱反射，表在反射，病的反射を理解し，説明できる． ③：反射検査を実施できる．</p>
	第 6-7 回	<p>姿勢反射検査（バランス検査を含む） 《到達目標》</p> <p>①：姿勢制御について理解する． ②：姿勢反射検査の意義と目的を理解し，説明できる． ③：姿勢反射検査を実施できる．</p>
	第 8 回	<p>筋緊張検査 《到達目標》</p> <p>①：異常筋緊張のメカニズムを理解する． ②：筋緊張検査の意義と目的を理解し，説明できる． ③：筋緊張検査を実施できる．</p>
	第 9 回	<p>協調性検査 《到達目標》</p> <p>①：協調性を定義し，説明できる． ②：失調症を理解する． ③：協調性検査の意義と目的を理解し，説明できる． ④：協調性検査を実施できる．</p>
	第 10-11 回	<p>脳神経検査 《到達目標》</p> <p>①：脳神経の機能を理解する． ②：脳神経テストの意義と目的を理解し，説明できる． ③：脳神経検査を実施できる．</p>
	第 12 回	<p>摂食・嚥下機能検査 《到達目標》</p> <p>①：摂食・嚥下機能を理解し，説明できる． ②：摂食・嚥下検査の意義と目的を理解し，説明できる．</p>

		③：摂食・嚥下機能検査を実施できる.
	第 13-14 回	上肢機能検査 《到達目標》 ①：上肢機能の概要を説明できる. ②：上肢機能検査の意義と目的を理解し，説明できる. ③：上肢機能検査を実施できる.
	第 15 回	テスト
	*講義の進捗により講義内容が前後する場合がある.	
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	
評価の方法	テスト（筆記）で 60 点以上を合格とする.	
授業の形式 受講上の注意	座学および実技（場合により web での講義あり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対する治療の実際を学習していく。
授業の概要	<p>1. 身体障害治療学概論 到達目標：身体機能作業療法の概要が理解できる。</p> <p>2. 身体機能作業療法学の基礎 到達目標：対象者に応じた身体機能作業療法ができるようになるために、治療・指導・援助の概要が理解できる。</p> <p>3. 身体機能障害の治療原理 到達目標：身体機能作業療法を実施できるようになるために、治療原理が理解できる。</p> <p>ボディメカニクス 関節可動域 筋力・筋持久力 筋緊張 不随意運動 協調運動障害 知覚再教育 廃用性症候群 物理療法</p>
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 (eテキスト)
評価の方法	課題レポート、定期試験の総合成績
授業の形式 受講上の注意	対面講義形式(場合により Web オンラインで行う)

作業療法学科 2年

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対して治療の実技を学習していく。
授業の概要	<p>教育目標：身体機能作業療法を実施できるように治療原理を理解して技能を習得する。</p> <p>行動到達目標：各治療の実技を模倣することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常作業への介入指導 2. ボディメカニクス 3. 関節稼動域の維持・拡大 4. 筋力・筋持久力の維持・増強 5. 筋緊張とその治療 6. 不随意運動とその治療 7. 協調運動障害とその治療 8. 知覚再教育 9. 廃用性症候群とその対応 10. 物理療法の基礎 11. リハビリテーション実施計画書の作成 12. 試験
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 (eテキスト)
評価の方法	課題レポート、確認試験、定期試験の総合成績 ※試験は実技・筆記
授業の形式 受講上の注意	実技中心（場合により Web オンラインで行う） 注意：服装は実習着とする。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神障害治療学 I
担当講師	大谷 将之
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①人と病いの関係性について学び、精神科作業療法を理解する。 ②精神科作業療法について、これまでの精神医療を踏まえたうえで理解を深める。 ③「作業」の特性を学び、人を作業的存在として捉えることについて理解する。 ④精神科作業療法の実施するプロセスを理解する
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・人と病いについて ・精神機能作業療法の基本的視点について ・精神科作業療法の歴史 ・作業の特性、目的と手段 ・人を作業的存在として捉える ・精神科作業療法の実施するプロセスについて
テキスト 参考書	精神機能作業療法学 (WEB 教科書) 作業で語る事例報告 資料配布
評価の方法	定期試験, レポート
授業の形式 受講上の注意	座学・グループワーク 復習をしっかりと行ってください。 分からないことは質問してください。

作業療法学科 2年

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期、1 単位、30 時間
成績評価方法	筆記試験

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
担当講師	山本悠、西木悠衣
授業の目的	精神科医療及び精神科作業療法がどのように確立されたかを歴史や制度の変遷から知り、障害特性と課題を理解した上で、その作業療法過程と介入方法について学ぶ。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (講義概要) 2. 精神科医療と作業療法の歴史について (関連法規・制度含む) 3. 精神科作業療法について 4. 各疾患の概論、評価、作業療法について <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症 ・気分障害 ・てんかん ・パーソナリティ障害
テキスト 参考書	精神機能作業療法学 (WEB 教科書) 資料配布
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学およびグループワーク

作業療法学科 2 年

授業科目名	発達障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	発達障害治療学 I	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①発達障害に対する知識を深め、リハビリテーションや療育の役割を理解する。 ②発達障害児に対するリハビリテーションの評価、治療計画の作成、援助の方法などについて学ぶ。	
授業の概要	第 1 回	発達障害の概要について <到達目標> ①発達障害に対する作業療法の理念や役割などを知ることができる。 ②各リハビリテーション職種の職域を知ることができる。
	第 2 回	脳機能の発達と感覚機能、言葉の発達などについて <到達目標> ①脳の基礎を学び、脳機能と各種発達との関連を理解できる。 ②人の発達過程について学び、定型発達を理解することができる。
	第 3-4 回	自閉スペクトラム症や知的障害について <到達目標> ①自閉スペクトラム症や知的障害の概要と基礎について理解できる。 ②学童期から青年期にかけて作業療法の概要を知ることができる。
	第 5-12 回	注意欠如・多動症や限局性学習障害について <到達目標> ①注意欠如・多動症や学習障害の概要と基礎について理解できる。 ②心理的模擬体験を通して、学校や病院での場面を想定した対応を理解することができる。
	第 11-14 回	脳性麻痺や重症心身障害児及び筋ジストロフィー (DMD) 等について <到達目標> ①脳性麻痺や重症心身障害児、DMD の概要と基礎を理解できる。 ②学童期から青年期にかけて作業療法の概要を知ることができる。
	第 15 回	定期テスト (第 1 回から 14 回で学んだ内容について)
テキスト 参考書	<必須> ・発達過程作業療法学 / 医学書院 (電子書籍) <参考> ・岩崎清隆 : 発達障害の作業療法 基礎編 第 3 版 / 三輪書店	
評価の方法	レポート課題や小テスト、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など	

作業療法学科 2 年

授業科目名	日常生活活動演習 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動演習 I	
担当講師	渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	① 人の日常生活活動について理解できる。 ② ADL 評価について理解し、必要に応じて評価を選択することができる。 ③ 作業工程分析と分析結果からアセスメントすることができる。	
授業の概要	第 1 回	ADL 総論 《到達目標》 ① : ADL 評価の視点を理解する。 ② : ADL に対する作業療法の流れを理解する。 ③ : ADL の課題を解決するための援助方法を理解する。
	第 2-6 回	食事動作 《到達目標》 ① : 食事動作の評価の視点を理解する。 ② : 食事動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③ : 食事動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 7-10 回	トイレ動作 《到達目標》 ① : トイレ動作の評価の視点を理解する。 ② : トイレ動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③ : トイレ動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 11-14 回	更衣動作 《到達目標》 ① : 更衣動作の評価の視点を理解する。 ② : 更衣動作を工程に分けて観察・分析することができる。 ③ : 更衣動作に対する作業療法の流れを理解する。
	第 15 回	確認テスト 試験範囲は第 1-14 回とする
テキスト 参考書	標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 第 2 版 医学書院 (電子版)	
評価の方法	授業参加態度 (10 点)、提出物 (30 点)、発表 (30 点)、テスト (30 点)	
授業の形式 受講上の注意	座学、演習 (場合により web での講義もあり)	

理学療法学科 2年

授業科目名	義肢装具学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学 I																																	
担当講師	PT・OT 教員																																	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 作業療法士 》																																	
授業の目的	義肢学の基礎を学ぶ																																	
授業の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマ</th> <th>講義内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>基礎知識</td></tr> <tr><td>2</td><td>基礎知識</td></tr> <tr><td>3</td><td>装具総論</td></tr> <tr><td>4</td><td>上肢装具</td></tr> <tr><td>5</td><td>上肢装具</td></tr> <tr><td>6</td><td>上肢装具</td></tr> <tr><td>7</td><td>上肢装具</td></tr> <tr><td>8</td><td>下肢装具</td></tr> <tr><td>9</td><td>小児関係</td></tr> <tr><td>10</td><td>小児関係</td></tr> <tr><td>11</td><td>義手概論</td></tr> <tr><td>12</td><td>義手概論</td></tr> <tr><td>13</td><td>義足概論</td></tr> <tr><td>14</td><td>義足概論</td></tr> <tr><td>15</td><td>定期試験</td></tr> </tbody> </table>		コマ	講義内容	1	基礎知識	2	基礎知識	3	装具総論	4	上肢装具	5	上肢装具	6	上肢装具	7	上肢装具	8	下肢装具	9	小児関係	10	小児関係	11	義手概論	12	義手概論	13	義足概論	14	義足概論	15	定期試験
コマ	講義内容																																	
1	基礎知識																																	
2	基礎知識																																	
3	装具総論																																	
4	上肢装具																																	
5	上肢装具																																	
6	上肢装具																																	
7	上肢装具																																	
8	下肢装具																																	
9	小児関係																																	
10	小児関係																																	
11	義手概論																																	
12	義手概論																																	
13	義足概論																																	
14	義足概論																																	
15	定期試験																																	
テキスト 参考書	義肢装具学 電子版																																	
評価の方法	筆記試験																																	
授業の形式 受講上の注意	座学形式 (Webにて実施する場合があります)																																	

作業療法学科 2年

授業科目名	地域作業療法学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域作業療法学
担当講師	赤堀 将孝
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	地域へ関わるための必要な知識を身につけ、地域で実践するための演習を通して地域包括ケアシステムにおける OT の役割を学ぶ。
授業の到達目標	知識としての地域包括ケアシステムを理解し、具体的な地域課題を抽出できる思考過程を経験し、行動できる技術を修得する。 地域で活動するための作業療法士の役割を理解する。
授業の概要	10 コマ程度を関西福祉大学社会福祉学部の谷川ゼミ生と合同で実施する。 実施内容は、職種間連携のための職種理解に関する演習、車椅子に乗り赤穂市内のバリアフリー状況の把握、地域在住高齢者との交流を予定している。 残り 5 コマは、上記の準備等となる。 詳細は授業開始時に提示する。
テキスト	・なし（必要があればその都度資料配布する）
評価の方法	毎回の出席状況と 2 回の提出物、最終的なプレゼンテーションが実施できること、 課題提出状況は 50 点、プレゼンテーションの評価は 50 点とする。
授業の形式 受講上の注意	講義と演習を混ぜて構成しています。 学外演習を実施しますが、事前に十分な説明をおこないます。 ・場合により、オンラインにて実施する。

作業療法学科 2 年

授業科目名	生活環境論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2 単位 60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論	
担当講師	國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①高齢者や障害者を取り巻く社会の状況や支援の仕組みを理解する。</p> <p>②障害の捉え方と自立支援について理解する。</p> <p>③疾患・障害別にみた福祉住環境整備の考え方を理解する。</p>	
授業の概要	第 1-10 回	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者を取り巻く社会状況 ・障害のとらえ方と自立支援のあり方 <p><到達目標></p> <p>①医療保険制度と介護保険制度を理解し説明することができる。</p> <p>②地域包括ケアシステムと地域リハビリテーションについて理解し説明できる。</p>
	第 11-20 回	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ・相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 <p><到達目標></p> <p>①疾患や障害の例を挙げ、それらに対する福祉用具の選定や、住環境整備のポイントを説明することができる。</p> <p>②住環境整備に伴う、関連職との連携やアセスメントの流れについて説明できる。</p>
	第 21-30 回	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識 ・在宅生活における福祉用具の活用 <p><到達目標></p> <p>①生活行為別にみた代表的な福祉用具について説明できる</p> <p>②基礎的な建築図面の読み方や、実践に必要な知識身に付ける。</p>
	期末試験	これまでの範囲から出題
テキスト参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改訂 6 版 配布資料・準備資料	
評価の方法	期末試験の結果 (60%以上を合格)	
授業の形式 受講上の注意		